氏名：　石井　クンツ　昌子　（ISHII-KUNTZ Masako）
所属：　人間文化創成科学研究科人間科学系
学位：　社会学博士（家族社会学　ジェンダー社会学専攻）
職名：　教授
専門分野：　家族社会学、ジェンダー社会学、統計学
URL：　http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Ishii.html
E-mail：　ishii.kuntz.masako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

ワーク・ライフ・バランス／家庭内性別役割分業／父親の育児・子育て参加／
IT 社会の子育てと育児満足度／アジアアメリカ系家族
Work and Life Balance ／ Gendered Division of Household Labor ／ Fathers' participation in child care ／ Parenting satisfaction in IT society ／ Asian American families

◆主要業績　　総数（７）件

・石井クンツ昌子　「父親と青少年期の子どもの発達：父親は子どもの社会性にどのような影響を与えているのか」　耳塚寛明・牧野カツコ（編）『閉ざされた大人への道―学力とトランジションの危機』　金子書房、125 － 142 頁、2007 年
・石井クンツ昌子「ワーク・ファミリー（ライフ）・バランス：日米の研究から」『家族関係学』（家族関係セミナー）第 26 号、29 － 42 頁、2007 年
・石井クンツ昌子「日本における家族社会学研究の国際化に向けて～研究論文を英語で発表するために～」『家族社会学研究』、第 18 巻第 3 号、42 － 54 頁、2007 年
・石井クンツ昌子「大学教育の日米比較：日本人社会学者が見たアメリカの大学教育事情」『生活社会科学研究』第 14 号、81 － 92 頁、2007 年
・石井クンツ昌子　「日本の社会・人口動態的変化と家庭内性別役割分担の関係」『日伊女性会議報告書』

◆研究内容　／　Research Pursuits

社会学の視点から家庭内のジェンダーダイナミクスに焦点をあてて研究している。特に、家庭内性別役割分担、男性の育児・家事参加に関してその規定要因を量的データにより実証したり、質的データにより詳述してきた。またワーク・ライフ・バランスの実現に向けての政策提言につながる研究も続けている。最近は IT 社会における育児の実態や親の育児満足度についての研究も開始している。

From sociological perspectives, my research focuses on gendered dynamics within families. In particular, I examine gendered division of housework, fathers' participation in child care and household labor using quantitative data. I also study the contexts of paternal involvement using qualitative data. I continue to conduct policy-oriented research to promote work-life-balance in Japanese families. My recent work examines how child rearing and parenting satisfaction are influenced by the use of IT technology.

◆教育内容　／　Educational Pursuits

社会学視点から家族関係や役割を理解することを目的として学部では「家族社会学総論」「家族社会学演習」、修士レベルでは「家族関係論」、博士レベルでは「家族論」を担当している。これらのクラスでは日米の家族社会学研究文献を読み、ディスカッションなどを行っている。

Viewing family relationships and roles from sociological perspectives, I teach “Family Sociology” and “Family Sociology Seminar” at undergraduate level, “Family Relations” at Master’ s level, and “Family Theory and Methods” at the Doctoral level. In these courses, students read family sociology literature in Japan and the U.S. for in-class discussions.

◆研究計画

IT 社会における育児期の親の実態と子育て満足度についての日米比較研究を平成 19 年度より開始した。インターネットや携帯メールを頻繁に使う若い親たちが多くなってきているが、このような媒体を使用した育児サポートがどのように役に立っているのか、またこのインフォーマルサポートが育児期の父親・母親にどのような影響を与えているのかを研究する。昨年は質的データを収集したが、本年度（H20）は量的データを日米で収集する予定である。

◆メッセージ

大学は「考えること」の多様性を学ぶ場だと思います。例えば家族に関しても様々な研究領域がありますが、多くの文献を読み、家族についての考え方の多様性を学んでいって欲しいです。丸暗記の勉強法ではなく、学んだこと、読んだことなどを常に Critical に分析する力を養うのが大学だと思います。自分の興味のある研究について積極的にアプローチしていくモチベーションの高い学生、院生を歓迎します。